

# エコアクション21 2023年度 環境経営レポート

(対象期間：2023年10月1日～2024年9月30日)



認証番号0009612

有限会社 今津マツダ  
【マツダオートザム今津】

発行日： 2024年 10月 25日

1	組織の概要	.....	3
2	実施体制	.....	4
3	環境経営方針	.....	5
4	環境経営目標及び実績	.....	6
5	環境経営計画	.....	7
6	環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	.....	8
7	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	.....	9
8	代表者による全体の評価と見直し・指示結果	.....	9

# 1 組織の概要



## ■組織の概要

事業者名	有限会社 今津マツダ (マツダオートザム今津)
所在地	〒520-1636 滋賀県高島市今津町舟橋2-8-8
代表者	代表取締役 橋本 学夫
事業活動の内容	自動車の整備と販売 ■ 新車販売 ■ 中古車販売 ■ 自動車整備 (車検・点検・一般修理) ■ 自動車部品・用品販売 ■ 自動車損害・火災・生命保険代理店業務
事業規模 (2023年度)	売上高 477百万円 新車販売台数 108台 中古車販売台数 52台 整備入庫台数 4,718台 従業員数 11名 社屋床面積 (ショールーム) 175㎡ 社屋床面積 (サービス工場) 380㎡
環境管理責任者	取締役 橋本 重明 TEL : 0740-22-2858 (代) FAX : 0740-22-1679 e-mail : <a href="mailto:info@imazu-mazda.co.jp">info@imazu-mazda.co.jp</a>

## ■過去3ヶ年の環境負荷の実績

	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素排出量	42,215kg-CO <sub>2</sub>	39,805kg-CO <sub>2</sub>	42,530kg-CO <sub>2</sub>
廃棄物排出量	13.35トン	12.27トン	12.22トン
水使用量	1,203m <sup>3</sup>	1,022m <sup>3</sup>	1,720m <sup>3</sup>

※ 電力CO<sub>2</sub>排出係数：2021～2023年度0.318kg-CO<sub>2</sub>/kWh

※ 二酸化炭素排出量は、使用電力、ガソリン、軽油 (以上目標項目) 及び灯油起因の二酸化炭素排出量合計。

※化学物質の使用はなかった。

<本社ショールーム>



<サービス工場>



<中古車展示場>



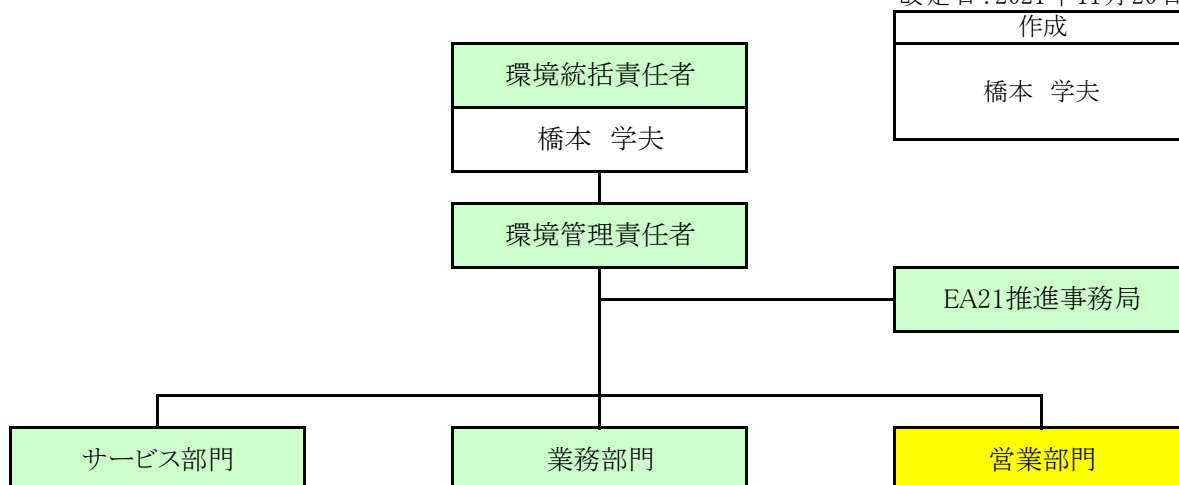
## 2 実施体制



作成日：2018年10月1日

改定日：2020年10月1日

改定日：2021年11月20日



担当者	役割
環境統括責任者 ＜社長＞	環境マネジメントシステム(以下EMS)に関する統括責任者 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ EMSの実施及び運用に必要な人・設備・費用・情報を用意</li> <li>・ 経営における課題とチャンスの明確化</li> <li>・ 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知</li> <li>・ 実施体制の構築</li> <li>・ 環境管理責任者の任命</li> <li>・ 環境経営目標の設定を承認</li> <li>・ 代表者による全体の評価と見直し・指示を実施</li> <li>・ 環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者 ＜役員・業務/サービス部門長＞	実務上の責任者として、全社の環境取り組みを推進する (※代表者は、環境活動の実務に関して全部門に対する指揮命令権限を委譲) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ EMSの構築、実施、管理</li> <li>・ 環境経営計画書、環境関連法令取りまとめリスト等の承認</li> <li>・ 環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>・ 環境経営レポートの確認</li> </ul>
EA21推進事務局	環境管理責任者をサポートし、EA21推進事務局として全社の環境取組を推進する <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境取り組みの指導・支援</li> <li>・ 環境データの集計・取りまとめ</li> </ul>
部門長	全社の環境取り組みを推進する <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当部門の環境取り組みの責任者</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>・ 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

## 基本理念

有限会社今津マツダ（マツダオートザム今津）は、自動車販売・自動車整備などの全ての事業活動において、自然との調和を図りながら、地球環境の保護と豊かな社会づくりに貢献します。

## 行動指針

- 1 環境に関する法規制を遵守します。
- 2 スカイクティブテクノロジーを投入した自動車をはじめとする各種エコカーの普及に努めます。
- 3 使用中の自動車の定期点検を促進すると共に、環境に配慮したタイヤやエコオイル等の製品の提供を推進します。
- 4 限りある資源を大切にするため、事務所・整備工場で用いる水資源および電気や化石燃料の使用量を減らし、CO2量削減に努めます。
- 5 循環型社会に向けて、整備工場で生じる廃棄物の削減に努めると共に適正処理とリサイクルを推進します。
- 6 環境改善目標を定め、継続的な環境改善活動を実践します。
- 7 全従業員にこの環境方針を周知徹底するとともに、環境経営レポートを作成し、公表します。
- 8 整備工場で使用する化学物質の管理を適正に行います。

制定 2012年9月1日  
改定 2013年4月22日  
改定 2014年10月1日  
改定 2018年10月1日  
有限会社今津マツダ  
（マツダオートザム今津）

代表取締役 **橋本 学夫**

## 4 環境経営目標及び実績



2020年度の実績を自己チェック等により把握し、その結果を基準値として、2021年度から2023年度までの目標を下記の通り設定し、環境活動に取り組んでいます。尚、このレポートでは、2023年10月から2024年9月までの運用実績について取りまとめました。

方針	取組項目	年度 単位	中長期											
			2020年度			2021年度			2022年度			2023年度		
			(基準年度)	(目標)	(実績) (換算実績)	(目標)	(実績) (換算実績)	(目標)	(実績) (換算実績)	(目標)	(実績) (換算実績)	(目標)	(実績) (換算実績)	
限りある資源を大切に するため、事務所・整備 工場で用いる水資源およ び電気や化石燃料の使 用量を減らし、CO2量削 減に努めます。	使用 電力 量	%		99.5%	111.5%	121.2%	99.0%	98.7%	121.4%	98.5%	115.8%	121.4%		
		消費量	41,009	40,804	45,743	49,721	40,599	40,474	44,282	40,394	47,503	49,794		
		(kg-CO <sub>2</sub> )	13,041	12,976	14,546	15,811	12,910	12,871	14,082	12,845	15,106	15,834		
	ガソ リン	%		99.5%	92.7%	100.7%	99.0%	93.3%	103.0%	98.5%	98.3%	103.0%		
		消費量	7,388	7,351	6,847	7,442	7,314	6,891	7,539	7,277	7,259	7,609		
		(kg-CO <sub>2</sub> )	17,139	17,053	15,884	17,266	16,968	15,987	17,491	16,882	16,841	17,653		
	軽 油	%		99.5%	81.5%	88.6%	99.0%	86.7%	59.8%	98.5%	57.0%	59.8%		
		消費量	2,881	2,866	2,348	2,552	2,852	2,499	2,734	2,838	1,642	1,722		
		(kg-CO <sub>2</sub> )	7,432	7,395	6,057	6,584	7,358	6,448	7,054	7,321	4,237	4,442		
	二 酸 化 炭 素 の 削 減	%		99.5%	97.0%	105.4%	99.0%	93.9%	102.7%	98.5%	96.2%	100.8%		
		(kg-CO <sub>2</sub> )	37,613	37,424	36,488	39,661	37,236	35,305	38,627	37,048	36,184	37,929		
	循環型社会に向け て、整備工場で生 じる廃棄物の削減 に努めると共に適 正処理とリサイク ルを推進します。	一 般 廃 棄 物	%		99.5%	78.3%	-	99.0%	105.8%	-	98.5%	79.1%	-	
(t/年)			1.35	1.34	1.06	-	1.33	1.43	-	1.33	1.07	-		
	産 業 廃 棄 物	%		99.5%	116.7%	126.8%	99.0%	102.9%	111.0%	98.5%	105.9%	111.0%		
		(t/年)	10.53	10.48	12.29	13.36	10.43	10.84	11.86	10.38	11.16	11.69		
限りある資源を大 切にするため、事 務所・整備工場 で用いる水資源 および電気や化石 燃料の使用量を減 らし、CO2量削減 に努めます。	水 使 用 量	%	(基準年度 2019年度)	100.0%	90.3%	98.2%	100.0%	76.7%	135.4%	100.0%	129.1%	135.4%		
		(m <sup>3</sup> /年)	1,332	1,332	1,203	1,308	1,332	1,022	1,118	1,332	1,720	1,803		
整備工場で使用す る化学物質の管理 を適正に行いま す。	化 学 物 質	使用するとき	-	適正に管 理する。	使用なし	-	適正に管 理する。	使用なし	-	適正に管 理する。	使用なし	-		
使用中の自動車 の定期点検を促進 すると共に、環境 に配慮したタイヤ やエコオイル等の 製品の提供を推進 します。	エ コ 整 備	%		100.0%	125.6%	-	100.0%	124.7%	-	100.0%	122.4%	-		
		台	3,856	3,856	4,843	-	3,856	4,808	-	3,856	4,718	-		

- 電力使用量及び燃料使用量は、総量で管理する。
- 購入電力の排出係数は、**0.318 kg-CO<sub>2</sub>/kWh**(2019年度関西電力調整後排出係数)とする。
- 「二酸化炭素排出量の削減」の欄の(kg-CO<sub>2</sub>)量は、使用電力、ガソリン及び軽油からの二酸化炭素排出量の合計である。
- 廃棄物排出量は、一般廃棄物及び産業廃棄物に対しての総排出量で管理する。
- 水使用量については、事務所、作業所における水使用量の削減について実施する。
- エコ整備は整備入庫台数で管理する。
- (換算実績)は、次による。

$$\text{換算実績} = \text{実績} \times \text{基準年売上高} \div \text{当該年売上高}$$

$$\text{※換算率} = \text{基準年売上高} \div \text{当該年売上高}$$

基準年売上高(2020年度)：500百万円

当該年売上高(2023年度)：477百万円

※対象項目：使用電力、ガソリン、軽油、二酸化炭素、産業廃棄物、水使用量

2023年度換算率：**1.048**

- 水使用量の基準年度は、2020年度実績に漏水故障による異常値を含むため、前年度の2019年度を基準年度とした。
- 「%」行は、基準年値に対するそれぞれの比率を%表示したものである。100%より上は増加、下は削減(減少)である。

「エコ整備」以外は、各年度ごとで(実績)が(目標)以下であれば目標達成である。

「エコ整備」については、(実績)が(目標)以上であれば目標達成である。

- 上記の目標のほか、作業現場の環境及び品質安全向上のために3S活動(整理、整頓、清掃)に取り組む。

方針	取組項目	活動計画の内容	責任部門
限りある資源を大切に するため、事務所・整備工場 で用いる水資源および電気 や化石燃料の使用量を 減らし、CO2量削減に 努めます。	使用 電 力 量	①不要な照明の消灯・節電の徹底。(昼休みの不要照明の消灯) ②冷暖房設備の温度を管理する。(冷房28℃ / 暖房20℃の徹底) ③クールビズ、ウォームビズ運動の呼びかけ。 ④作業工程ロスによる稼働時間の短縮。(残業時間を減らす) ⑤メジャーサインの点灯、消灯時間の見直しを行う。	業務担当
	ガ ソ リ ン	①エコドライブの実践。(エコドライブ10のすすめ)を実践) ②社用車のタイヤ空気圧、不要な積載物の有無のチェック管理 を行う。 ③ECOオイル交換、エアエレメント清掃 交換の実施。	サービス担当
	軽 油		
循環型社会に向け て、整備工場で生じ る廃棄物の削減に努 めると共に適正処理 とリサイクルを推進 します。	一 般 廃 棄 物	一般廃棄物 ①資源ゴミ(新聞紙、雑誌等)の徹底した分別処理。 ②不要紙の利用。(裏紙の使用) ③ダンボール、雑誌類、ペットボトル等の再資源化の徹底。	営業担当
	産 業 廃 棄 物	産業廃棄物 ①分別の徹底回収による再資源化の推進。 ②産業廃棄物業者の見直しと適正処理の確認。	
限りある資源を大切に するため、事務所・整備工場 で用いる水資源および電気 や化石燃料の使用量を 減らし、CO2量削減に 努めます。	水 使 用 量	①節水意識の向上。 ②毎月の水道使用量の確認と漏れ水の点検。	業務担当
整備工場で使用する 化学物質の管理を適 正に行います。	化 学 物 質	①使用する化学物質のSDSを入手し、性状及び取扱いに関する 情報を確認し使用する。	
使用中の自動車の定期 点検を促進すると共 に、環境に配慮した タイヤやエコオイル 等の製品の提供を 推進します。	エ コ 整 備	①低公害車の販売促進。(ECOカー販売) ②エコオイル交換の販売促進。 ③エコタイヤの販売促進。 ④自動車リサイクル部品の販売促進。	サービス担当

スカイアクティブテクノロジーを投入した自動車をはじめとする各種エコカーの普及に努めています。

工場・事務所照明のLED化



営業用に導入したPHV車とV2H型充電システム



緊急事態訓練テストとして実施した工場での消火訓練

## 6 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容



方針	取組項目	年度	2023年度					取組の評価 次年度の取組	担当
			(目標)	(実績)	(評価)	(換算実績)	(評価)		
限りある資源を大切にするため、事務所・整備工場で用いる水資源および電気や化石燃料の使用量を減らし、CO2量削減に努めます。	使用電力量	%	98.5%	115.8%		121.4%	<取組の評価> 年間を通じた結果は「基準年比98.5%」の目標に対し、115.8%となり目標未達成となった。 売上換算評価でも目標未達成となった。 これは、入庫台数が基準年に比し大幅に増加したことによる影響が大きい。 <次年度取組> さらなる改善に努める。	業務担当	
		消費量	40,394	47,503	△	49,794			
		(kg-CO <sub>2</sub> )	12,845	15,106		15,834			
	ガソリン	%	98.5%	98.3%		103.0%	<取組の評価> 年間を通じて見るとガソリンは「基準年比98.5%」の目標に対し、98.3%となり目標達成となった。 軽油も「基準年比98.5.0%」の目標に対し、57.0%で目標達成となった。 これは、目標達成に向けた環境取組の成果と評価できる。 売上高換算では、ガソリンが未達成、軽油は達成となった。 <次年度取組> 目標達成のため環境取組を継続する。	サービス担当	
		消費量	7,277	7,259	◎	7,609			
		(kg-CO <sub>2</sub> )	16,882	16,841		17,653			
	軽油	%	98.5%	57.0%	◎	59.8%	<取組の評価> 年間を通じて見ると「基準年比98.5%」の目標に対し、79.1%で目標達成となった。 これらは、目標達成に向けた環境取組の成果と評価できる。 <次年度取組> 目標達成のため環境取組を継続する。	営業担当	
		消費量	2,838	1,642	○	1,722			
		(kg-CO <sub>2</sub> )	7,321	4,237		4,442			
	排出酸 減量化 の炭 削素	%	98.5%	96.2%	○	100.8%	<取組の評価> 年間を通じて見ると「基準年比98.5%」の目標に対し、79.1%で目標達成となった。 これらは、目標達成に向けた環境取組の成果と評価できる。 <次年度取組> 目標達成のため環境取組を継続する。	業務担当	
(kg-CO <sub>2</sub> )		37,048	36,184		37,929				
循環型社会に向けて、整備工場で生じる廃棄物の削減に努めると共に適正処理とリサイクルを推進します。	一般廃棄物	%	98.5%	79.1%	○	-	<取組の評価> 年間を通じて見ると「基準年比98.5%」の目標に対し、79.1%で目標達成となった。 これらは、目標達成に向けた環境取組の成果と評価できる。 <次年度取組> 目標達成のため環境取組を継続する。	営業担当	
		(t/年)	1.33	1.07		-			
	産業廃棄物	%	98.5%	105.9%	△	111.0%	<取組の評価> 年間を通じると「基準年比98.5%」の目標に対し、105.9%で目標未達成となった。 これは、入庫台数が基準年に比し、大幅に増加した影響が大きい。 売上高換算でも目標未達成となった。 <次年度取組> さらなる改善に努める。	業務担当	
		(t/年)	10.38	11.16		11.69			
限りある資源を大切にするため、事務所・整備工場で用いる水資源および電気や化石燃料の使用量を減らし、CO2量削減に努めます。	水使用量	%	100.0%	129.1%	△	135.4%	<取組の評価> 年間を通じ、「基準年比100%」の維持目標に対し、129.1%で目標未達成となった。売上高換算でも目標未達成となった。 これは、入庫台数が基準年に比し大幅に増加したことによる影響が大きい。 <次年度取組> さらなる改善に努める。	業務担当	
		(m <sup>3</sup> /年)	1332	1720		1803			
整備工場で使用 する化学物質の 管理を適正に行 います。	化学物質	使用する とき	適正に管 理する。	使用なし	-	-	<取組の評価> 化学物質の使用はなかった。 <次年度取組> この状況を維持したい。		
使用中の自動車 の定期点検を促 すと共に、環境 に配慮したタイ ヤやエコオイル 等の製品の提供 を推進します。	エコ 整備	%	100.0%	122.4%	○	-	<取組の評価> 年間を通じて「基準年比100%」の維持目標に対し、122.4%で目標達成となった。 <次年度取組> この状況を維持したい。	サービス担当	
		台	3,856	4,718		-			

数値評価 ○：達成している。△：未達で連続すると問題の可能性がある。×：未達で改善の必要がある。

※「電力・ガソリン・軽油の評価」

◎：月実績及び累計ともに目標値以下で十分に達成している。○：月実績又は累計の何れかが目標値以下で達成している。

△：月実績及び累計ともに目標値を超えているが、月実績が目標値の1.5倍未満で連続すると問題の可能性がある。

×：月実績及び累計ともに目標値を超えており、かつ月実績が目標値の1.5倍以上で、改善の必要がある。

※「二酸化炭素排出量の評価」 ○：実績、換算実績が目標値以下 △：実績、換算実績が目標値を超え1.5倍未満 ×：実績、換算実績が目標値の1.5倍以上



## 7 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無



環境関連法規への違反、訴訟はありません。又、過去3年間に関係当局からの違反等の指摘はありません。

適用される法規制等と遵守状況

法規制等の名称	該当する要求事項	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理、排出	適正処理
自動車リサイクル法	引取業者の登録、引取業者の義務	遵守
騒音規制法	対象特定施設の届出、規制値の遵守	遵守
振動規制法	対象特定施設の届出、規制値の遵守	遵守
水質汚濁防止法	事故時の措置	遵守
消防法	対象危険物保管の届出	遵守
フロン排出抑制法	第1種特定製品の簡易点検・記録、フロン充填エアコン搭載自動車整備時の基準遵守	遵守
地域ごみ出しルール	一般廃棄物の分別、収集、排出	適正処理

## 8 代表者による全体の評価と見直し・指示結果



全体評価・見直し・指示のまとめ

実施日 2024年10月16日

評価：

2020年度の実績を基準とし、2021年度から2023年度までの中長期目標を設定し、2023年度はその最終年度として取組んだ。

実負荷では、使用電力量、産業廃棄物及び水使用量が目標未達成となったのは残念である。

これら以外のすべての項目において目標達成となった。

特に軽油については目標を40%強下回る削減を達成しての目標達成となっている。

これらを評価したい。

未達成項目については、在庫台数の増加に伴う整備関連負荷の増加が主因であるが、このことは、在庫台数の増が売上増加を意味しており、企業としては是とするものである。

指示内容：

- ・次期中長期目標を早期に設定してほしい。

方針の変更の必要性：有 無

目標の変更の必要性：有 無

環境経営計画の変更の必要性：有 無

実施体制の変更の必要性：有 無